

巻頭言

年頭所感

一般社団法人 土地改良建設協会 会長 押味 至一



謹んで新春をお祝い申し上げます。先ずは、会員各社の新年の益々のご発展と現場の安全をお祈り申し上げます。

昨年の秋以降、新型コロナウイルス新規感染者数が低い水準で推移し、これまで大きく制約を受けてきた社会経済活動の正常化が期待される一方、流行第八波の懸念もあり先行きは予断を許さない状況であります。

また、昨年二月に始まったロシアのウクライナ侵略、そして急激な円安は、食料・エネルギーの価格高騰を引き起こすとともに、調達リスクを顕在化させ、広く国民に食料・エネルギー安全保障の問題を提起いたしました。さらに世界的にインフレが進行し、我が国の国民生活、経済活動に大きな影響を及ぼしております。

そのような状況の下、直面する課題に前を向いて着実に取り組むことで、新たな一年が飛躍の年となることを願ってやみません。特に食料安全保障の問題については、我が国の食料自給率はカロリーベースで三八%、その担い手は急激な減少が見込まれ、化学肥料原料は殆どを輸入に依存する状況に対して、スマート農林水産業による成長産業化、脱炭素化や化学肥料低減など農林水産業のグリーン化といった、構造的な変革が求められていると聞いております。

また、昨年五月に発生した明治用水頭首工の漏水事故は、農業・工業用水の供給に深刻な状況を生じさせ、老朽化が進む既存インフ

ラへの対応に大きな課題を投げ掛けたと承知しております。

我が国食料の生産・供給に必要な社会資本整備を担ってきた我々建設業としては、既存インフラの更新整備や機能強化を始め、これまで培ってきた技術やノウハウを活かして、将来に向けた課題解決に貢献していくことが、社会から求められる使命・役割と考えております。

その足元で、我々建設業は、農林水産業と同じく次世代の担い手確保という問題に直面しております。

持続可能な建設業を目指して、工事現場における週休二日の実現を始めとする働き方改革に向けた取組み、就労環境の整備や賃金水準の向上といった技術者・技能者の処遇改善、機械化・ロボット化による生産性の向上と安全・安心な作業環境づくりなど、新3K（給与、休暇、希望）に「かっこいい」を加えた新4K、若者に魅力ある建設業に向けた取組を着実に進める必要があります。

当協会では、本年も農林水産本省や地方農政局の皆様との意見交換の場を持たせていただくなど、土地改良事業の円滑な推進、入札・契約制度、働き方改革や生産性の向上などについて、受発注者双方にとってメリットある改善に向けた取組を深化させ、会員各社が抱える諸課題に的確に対応できるよう活動を行ってまいります。

当協会の活動に対して、会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。